

理研会報

発行日：平成29年2月28日
号数：No. 384
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：<http://rikainba.com>
メール：rikainba@yahoo.co.jp

★★

平成28年11月5日6日に千葉市の各会場で第66次千葉県教育研究集会が行われました。印旛からは夏の印教研で小学校5部会、中学校3部会が推薦され、森下康彦先生（大山口中学校）、楠卓士先生（船穂中学校）、塚野香穂先生（大日小学校）が研究発表を行いました。

また、今年の全国教研は2月3日～5日に新潟県を会場に実施されました。大山口中学校の森下先生がメインレポーターとして参加し、2日目（4日）に提案を行いました。今回の理研会報では、全国教研、県教研に参加した先生方からの感想等を掲載いたします。

全国教研に参加して

白井市立大山口中学校 森下 康彦 先生

このたび印旛を代表して、全国教研に参加させていただきました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。理科教育分科会では、各都道府県から小学校14本、中学校9本、高校3本の計26本の提案がありました。どの提案もとても興味深く、提案者の方々の熱意が感じられました。私も「科学的に探究する能力を育てる指導の工夫～日常生活と理科をつなげる学習を通して～」という主題で熱く提案してきました。

全体的には小規模校からの提案が多く、私たちが当たり前に行っている統計分析による考察ができない分、生徒の感想や様子による発表が多かったです。そのため私たちのような「14校の共同研究」、「千

人を超える実態調査」は非常に珍しく、驚きと賞賛の声が寄せられました。また、北は北海道更別村から、南は鹿児島県沖永良部島まで様々な地域性があり、必ずしも学習指導要領通りに授業ができず、それぞれの地域の特性に合わせた工夫をされていました。今回私たちの研究は、「科学の恩恵を受け快適な生活をしている」というところから出発しましたが、全国には厳しい環境、厳しい自然の中で生活している地域が数多くあり、様々な視点を学ぶことができました。

二日目の昼食後には、実験紹介コーナーがあり、様々な教材教具、面白い実験が紹介されました。どれも楽しい実験ばかりで、機会があれば是非紹介していきたいです。

県教研に参加して

小学校・5部会

1月5、6日の2日間、千葉市で行われた県教研に参加させていただきました。

印旛支部は、研究主題を「問題解決能力を育成する指導の工夫～見通しを持たせる場面を重視して～」とし、第4学年「とじこめた空気と水」と第5学年「ふりこの動き」の単位についての実践を発表しました。これまで行ってきた実践のように、基礎事項を学習した後揺さぶりのある事象を提示し、児童が既習事項をもとに問題解決を図るという提案でした。

共同研究者からは、「児童にとって興味をもてる実験であり、実験中も児童同士で条件制御に気を付けて行っている点がよい。

題解決能力の素地の育成につながっている。」と評価されました。一方、「教師の事象提示を受け、児童自らが問題を見いだせるような手立てを行うこと。」や「一時間だけでなく、単元を通して児童の変容を行うとよい。」というご指導を受けました。来年度に向けて、ご助言いただいたことを踏まえてまとめていこうと思います。

また、他の支部の実践を聞くことも勉強になりました。今回学んだことを日々の授業で生かして参ります。このような貴重な機会を与えてくださった印教研理科研究部の皆様に、深く感謝致します。



2月10日（金）に成田小学校にて第3回役員会と第2回研究員集会が行われました。役員会では今年度の活動報告や来年度の事業計画などが審議されました。

引き続き小学校、中学校にわかれ、研究員集会が行われました。中学校は、千葉県立東部図書館 図書館連携課長大三川 弘先生、小学校は佐倉市立佐倉小学校長古嶋美文先生を講師にご指導をいただきました。

研究年数に応じて、来年度の研究内容が各部会から提案され、研究の方向性や主題設定、まとめかたなど、それぞれについて、参加された先生方からいろいろなご意見をいただきました。各部会で今回の研究員集会を受けてさらに検討し、研究を進めていただきたいと思います。なお、次回の研究員集会は今年度同様6月上旬を予定しておりますので、夏の印教研集会での発表の中間報告ができるように見通しを持った活動をお願いいたします。（写真上：手前が小学校・奥が中学校



写真下：右が中学校 左が小学校